



写生帖 第80号「池上本門寺」昭和29年4月14日午後1時  
この写生を基に「池上本門寺之塔」と「池上乃雪」制作されたと考えられる。



木版画「池上本門寺之塔」昭和29年作



木版画「池上乃雪」昭和31年作

昭和7(1932)年10月1日、当時の東京市に隣接する82ヶ町村が合併され、明治11(1878)年以来の東京区部「旧15区」に「新20区」が加わり、「東京35区」が誕生しました。その際、馬込町、東調布町、池上町、入新井町、大森町が「大森区」に、矢口町、蒲田町、六郷町、羽田町が「蒲田区」となりました。なお、10月1日の「都民の日」は、これを記念して制定されました。その後、昭和22(1947)年3月15日、東京35区は整理統合され「東京23区」となります。この時、大森区と蒲田区が合併し、旧区名から一字ずつを取って命名された「大田区」が誕生しました。平成29(2017)年、大田区は生誕70周年を迎えます。この区制70周年を広く皆様に知っていただくだけでなく、大田区の魅力を再認識する機会として、世界的な人気版画家で大田区に所縁の深い川瀬巴水の作品を紹介します。

また、本年(平成28年)は、その巴水が、大正15(1926)年11月、大森新井宿子母澤(現大田区中央四丁目13番)に転居し、初めて大田区に居住して以来、90年という区切りの年にも当たります。その後、

昭和5(1930)年、現大田区南馬込三丁目17番に転居、戦中は栃木県塩原に疎開しますが、23(1948)年以降は、32(1957)年に亡くなるまで、現大田区上池台二丁目33番で過しました。このように、巴水は、版画制作活動39年の内31年を区内で展開したことになります。その作品は、制作当初から多くが海外へ輸出されたため、国内だけでなく欧米を中心に多くのコレクターが存在し、世界各地の美術館でも作品がコレクションされています。

今回の企画展では、区制70周年に因み、大田区が誕生した「昭和22年作」以降、昭和32年作「絶筆」に至るまでの作品から選択し、展示します。また、巴水は「風景が版画にみえるようになった」と述べていますが、その写生帖から版画作品の基となった写生画も紹介します。巴水の眼となって両者を比較しながらご覧ください。巴水が戦後に制作した作品をまとめて観る機会は、比較的少ないのではないかと思います。展示から、戦後作品の円熟した味わいを堪能していただければ幸いです。なお、展示品は全て当館所蔵「川瀬巴水コレクション」です。



「野火止 平林寺」を見る川瀬巴水 昭和27年4月29日



写生帖第76号「平林寺」昭和26年11月28日11時



木版画「野火止 平林寺」昭和27年作